

次世代 HERO

Next Generation's Hero

やました み あ
山下心愛 さん

第11回 いっしょに読もう！ 新聞コンクール 優秀賞

選んだ記事のタイトルは、
「新型コロナ おなかに子でも休めない」



◀ 山下さんの応募作はこちら
日本新聞協会「NIE 教育に
新聞を」のページへ



▲ 職員室で受賞の告知。校内放送
で呼び出されドキッとしたそう。

第 11回いっしょに読もう！新聞コンクールで優秀賞に輝いた下関中等教育学校2回生の山下心愛さんをご紹介します。

家族や友達と一緒に新聞記事を読み感想や意見などを書いて応募するこのコンクール。小・中・高校部門でそれぞれ最優秀賞1編、優秀賞10編、奨励賞120編が選ばれます。山下さんの応募作は、国内外から寄せられた57,977編の中から見事優秀賞に選ばれました。

記事を読んだ時、看護師として妊娠中でも懸命に働く叔母さんのことが頭に浮かんだそうです。「妊娠中の医療従事者も安心できる社会になってほしい」という願いを込め、自分の考えをまとめました。実は新聞を読む機会があまりなかったという山下さん。「決められた文字数の中で要点を絞るのに苦労しました。応募をきっかけにもっと世の中のことを知ろうと思いました」と、素直な気持ちを話してくれました。



新母船のイメージ図

下関市での 新捕鯨母船 建造が決定！



市長コラム 希望の風 市長の部屋

皆さんこんにちは！ 前田晋太郎です。このたび、悲願でありました新捕鯨母船の建造が下関市で行われることに決まりました。これにより、本市の沖合捕鯨の母港化が本格的にスタートすることとなり、大変喜ばしく思っています。

日本政府が目指す持続的な商業捕鯨を推進するためには、枯渇することのない計画的な捕鯨活動と採算の取れる鯨肉の消費、そして捕鯨活動を円滑に行っていくための地域の体制が必要となります。くじらの街日本一を目指す下関市としては、今後も全力で捕鯨活動を支え、下関の元気につなげていきたいと強く考えています。

昨年行われたくじら生鮮肉の初競りは非常に活気がありましたが、何といても本当においしい鯨肉が印象的でした。今回口にすることができなかった方も、また陸揚げされることをぜひ楽しみにしていただければと思います。

これからコロナが明ける時代に向けて、この鯨肉を求めて訪れる観光客をたくさん誘致していきたいと思えます。そして業界関係の皆さんはもとより、市民の自信と誇りにつなげていけるよう、私自身も先頭に立って情報を発信し、水産業界が発展できるような施策にチャレンジしていきたいと思えます。

今後とも皆さんの絶大なるご支援をよろしくお願いいたします。